

2023 年春 劔岳(2,999m) 源次郎尾根 山行報告書

参加者：土橋 誠・中山 正浩

日 程：令和5年(2023年)4月30日～5月4日

4月30日(日) 夕刻 北九州発

5月1日(月) 扇沢駅より黒部立山アルペンルートにて室堂より入山 → 劔沢にて幕営

5月2日(火) 源次郎尾根登攀 → 山頂 → 平蔵谷下降 → 劔沢にて幕営
7時15分登攀開始 13時過ぎに劔岳登頂(約6時間行程)

5月3日(水) 撤収 土橋(別山 → 真砂岳 → 立山経由で室堂へ下山)
中山(雷鳥沢経由で室堂へ下山) 安曇野にて入浴、食事

5月4日(木) 早朝 北九州着

装 備：ロープ 30m×2・スノーバー×2(使用せず)・各自バイル2丁



昨年に引き続き劔立山エリアに行った。

天気予報はいまいちだったが、運良く予定通りに行動ができ幸運だった。

入山日は早めに天気が崩れ、翌日の未明まで風が吹き荒れていたため、2日の登攀をあきらめかけていたが、偵察だけでもしておこうと、一応装備を背負い取り付きのルンゼまで降りた。

平蔵谷の末端でキャンプをしていた人から、先行者ありとの情報を受け、予定より2時間遅れで登攀開始。

トレースを頼りに、無事に山頂まで達することができた。

標高差950mの尾根は、予想通りの体力勝負で中山は手足の筋肉をかなり消耗したが何とか登頂できた。

土橋さんは余裕の体力で、翌日も劔御前から立山経由で室堂に下山。

私は筋肉痛に耐えながら雷鳥沢経由で、室堂に下山した。



2日、7時15分登攀開始

平蔵谷のすぐ下にある残雪期の取り付きに向かうルンゼは、傾斜は緩いが落ちたら只ではすまない。過去に、死亡事故もあり慎重に登る。。



雪はよくしまっており、バイルとアイゼンがしっかり決まり快適な登攀が楽しめる。
取り付きまでのルートは、このルンゼがワンピッチといったところだ。
安定して足が置けるクレバスが所々にあり、休憩できる。



ルンゼを越えると狭い雪稜から雪壁に出て、さらに雪稜を越えていく所々で岩が出てくる



ハイ松をつかんでの木登りとなる。一箇所凹状の10m程の岩場でザイルを使った。岩も木もだいたいつかめる。〔写真は岩稜帯を越えたところ〕



ひたすら雪壁を登る。高度が上がるにつれて気温が上がり、雪が緩んでくるが登攀には問題の無い程度



I 峰をクリアしてII 峰に向かう、先行者のトレースがあり安心だ



I 峰からII へのクライムダウン、雪が緩んできておりナイフリッジを慎重に渡る



I 峰を背後にII 峰の稜線をひたすら上がる。まだまだ先は長い



快適な雪稜を歩く



Ⅱ峰頂上で、懸垂下降のセットする土橋さん
(古いチェーンと他に、新しくペツルの強固な支点があった)



II 峰より懸垂下降。今回は 30m を 2 本用意したが、50m1 本でも足りるようだ



最後の登りだが、まだまだ長い



眼下には絶景が広がる〔左ピークが立山〕

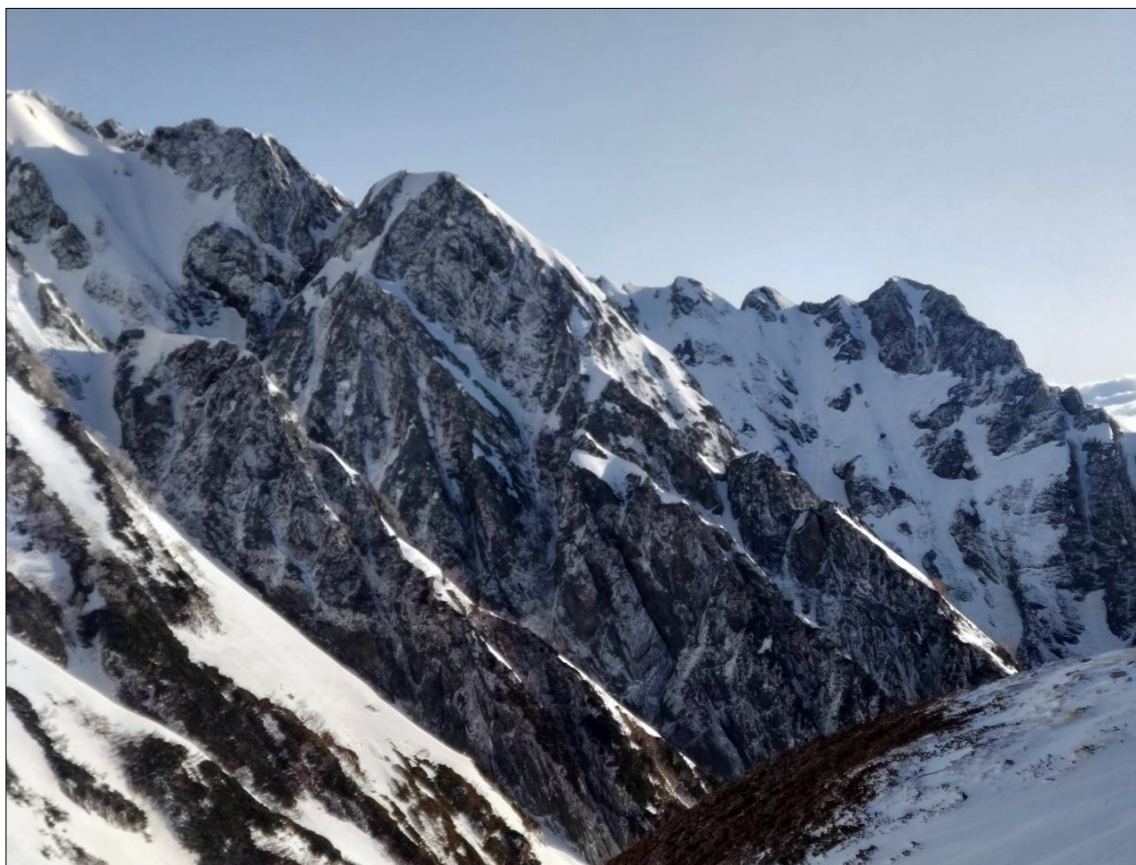


平蔵のコル



13 時 11 分 劔岳に登頂

下山は平蔵谷を選択。雪はかなり緩んでおり、ノーマルルートの下りは危険と判断した。
尻セードができないほど緩んでおり、足を上げるのがきつかったが、何とか 16 時頃には劔沢に下山できた。



今回登った源次郎尾根〔後方はハッ峰〕

【所感】 僕は 5 年前の別山尾根以来、土橋さんは劔岳は初めて。
好天に恵まれ、試練と憧れの劔岳バリエーションルートの登攀に無事成功することができた。
やはり劔岳は、でかいというのが強く印象に残った。
私は精根尽き果て、くたくたになったが大きな満足感を得ることができた。
先行してステップを刻んでくれた土橋さん、助言をくださった岡村さんをはじめ会のみなさんに
改めて感謝をしたいと思う。

写真撮影：土橋 誠・中山 正浩
報告者：中山 正浩